

立川文学賞を未知の地平を切り開く才能を生み出す苗床にしましょう。

このたび東京立川こぶしロータリークラブ二十五周年記念事業として立川文学賞が創設されたことは立川の歴史を文化の視点から画する画期的な出来事のように思います。

戦後、立川は米軍基地の街として知られ、その基地を発信地としてジャズ、ココロラをはじめ、数多くの欧米文化が復興から驚異の経済成長への道を歩みだした日本社会に広がっていきました。基地の是非はともかくとして、また、輸入文化であつたかもしれませんが、戦後の一時期、立川はまぎれもなくインパクトの強い文化を発信続けて輝きを放っていたのです。現在の立川は新宿以西の都内では最大の乗降客を数え、鉄道交通の有数の要衝であり、それに支えられ商業都市として目覚しい発展を遂げつつあります。

しかし、立川の文化はなんだ、と問われた場合、とっさに答えが出ないのではないのでしょうか。立川文学賞の創設には戦後、欧米系文化のダイナミックな発信地として大きな存在感を見せた立川を今度は日本に生まれ世界に羽ばたいていく新しい文化の発信地にしようという大志が秘められているように思います。

そのために、立川という名を冠しても、海外を含め、内外の広くから将来性に富んだ才能を集集しようとした、と主催者から伺っています。その選考委員を託された責任の重みを充分に感じながら今は野にある豊かな才能を見出し、世に問うていくことをお約束します。どうか第一回立川文学賞を成功に導くようご協力くださるようお願いいたします。

立川文学賞選考委員長 志茂田景樹